



『年中行事日記帳一』

『年中行事日記帳一』は、文政 5(1822)年酒造業を始めた勘次郎が、名主職を長男重兵衛に譲り、少しゆとりができたと思える文政 11(1828)年から始まります。勘次郎 52 歳の時でした。この日記は 88 歳になるまで続きます。最初の年の日記は 4 月 6 日から始まるのですが、この年の最後には日記を書くにあたっての思いがつつられています。又この中には酒造関係、人々の暮らし、幕府役人、尾州家御鷹場、信仰、建築、米相場等の記録が残されています。

又猫好きであったようで猫が登場するのも興味深いところです。

文政 12 年・13 年と続きます。